



2月号

横浜市立中田小学校 学校だより

第435号



中 田 小	<b>学 校 教 育 目 標</b> さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます。
平成29年1月31日	<b>中田小ホームページ</b> <a href="http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/">http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/</a>



## やり抜く力

副校長 今野 敏晴

先週は、マラソン大会が行われました。低学年は、5分間の間にどれくらいの距離を走れたかを競いました。3・4年生は、1000mか2000mから選択、5・6年生は、2000m、3000mから選択して走りました。本校では、広い敷地を活かし、年間を通して、朝のさわやかタイム・マラソン貯金などを行い体力づくりに取り組んでいます。それらの成果も発揮されたものと思っています。粘り強く最後まで走る姿は、どの子も素晴らしかったです。また、他学年に一生懸命に声援を送る姿にさわやかさを感じました。応援する声に励まされてより一層がんばれたことでしょうか。多くの保護者の皆様に、児童の安全観察や応援などをしていただき、ありがとうございました。

人生もマラソンに例えられることがあります。昨年話題となった「やり抜く力」の著者、アンジェラ・ダックスワースさんの研究によれば、「やり抜く力」とは、「ゴールに向け、情熱と忍耐をもち、短距離走ではなく、マラソンを走るように物事に向き合う力」だそうです。マラソンのように山あり、谷ありの人生を幸福感を失わずに生きていくためには、自分なりの目標と、興味と希望が大切で、私たちは何歳になっても自分自身の「やり抜く力」を伸ばせるということです。天才としか思われぬ人々は、常に「もっとうまくになりたい」という強い意欲と興味と探究心を持ち続け、一つひとつはだれにでもできるような地道な努力を、長年正しく積み重ねていくことで生じる相乗効果によって、卓越したレベルになるのだといえます。努力は才能の2倍は大切、人間は変わる、成長できると信じて一生懸命努力すれば、自分の能力を伸ばすことができるのです。

また、大人になって成功や失敗をしたとき、その原因を才能に結び付けるか、それとも努力に結び付けるかは、子どものころの「ほめられ方」によって決まる確率が高いとのこと。「才能があるね！素晴らしい」ではなく「よくがんばったね！素晴らしい！」、「挑戦したことが素晴らしい」ではなく「今回はうまくいかなかったね。どうやったらうまくいくか考えてみよう」など、ただほめるだけでなく、「自分なりの目標をもち努力することによって、以前はできなかったことをできるようにすることが大事だよ」と伝える必要があるそうです。

同じ長距離でも教師は、駅伝ランナー、私たち教職員の仕事は、一年一年が勝負です。前任者から受け取った襷（たすき）を確実に次につなげなければなりません。地域の方々の多くの励ましの言葉や声援、保護者の皆様のご協力、そして何より子どもたちが成長していく姿に喜びを感じ、次の学年や次の学校へ、また次の担当者へと襷をつなげることができます。今の時期は、子どもたちと向かい合いながら一人ひとりの努力した成果が表れているかしっかりと見つめ、次のランナーに襷を渡すべく準備を進めているところです。

子どもたち同士で切磋琢磨する機会を保障し、「現在の能力」ではなく「これから獲得する能力」をほめ、「結果」をほめる以上に「努力」をほめること、そして、自分で考え試行錯誤し、失敗を乗り越え成功体験に近づける指導を進めてまいります。ご家庭、地域の皆様、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

